

医療福祉・在宅看取りの地域創造会議 通信 第89号

(R3/4/26)

第91回ワーキンググループ会議 (R3.3.25)

「今年度の振り返り、地域創造会議 10年間の歩み、今後の取組と役割等について」

医療福祉・在宅看取りの地域創造会議
事務局長 角野 文彦



県庁の大会議室を拠点に、対面とWebで開催しました。県内外の医療職・介護職・家族の会・行政職の方など、43名 (Web23名、会場20名)の方が参加してくださいました！

会場では感染予防対策として、手指消毒、検温、アクリル板の設置をしました



医療福祉・在宅看取りの地域創造会議は・・・

H23.8に【自覚者の自発的な集まり】として、医療福祉関係者だけでなく、在宅看取り・在宅療養を考える人なら誰でも参画できる団体として発足しました (会員の職種は医療福祉関係者の他、宗教家、司法書士、建築士、行政職など様々です)

＜ワーキンググループからの提案の一例＞

○在宅看取り普及啓発プロジェクト

- ・本人が望む場所での看取りが可能な体制の整備

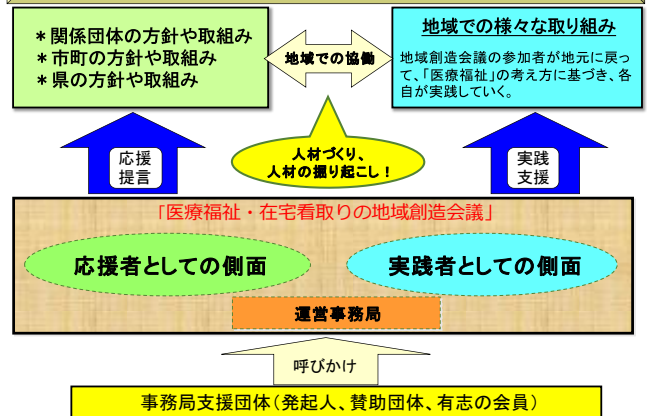
○訪問診療拡大プロジェクト

- ・訪問診療に携わっていただく医師の拡大を目的とする「滋賀県での在宅医療の始め方」を滋賀医科大学の学生と作成

＜主な活動として＞

- ・定例ワーキンググループ会議 (毎月第4木曜日を原則として開催)
- ・総会・研修会 (講演、シンポジウム など)
- ・「滋賀の医療福祉を守り育てる」県民フォーラム (啓発劇の公演、県民向けの講座 など)

「医療福祉・在宅看取りの地域創造会議」取組みスキーム



参加者の声

市町や職種の垣根を越えて熱い思いを語り合ったり、一緒にフォーラムの劇を作り上げたり、創造会議ならではの色々な経験をさせていただいたことは、私にとっても大きな宝物となりました。これからも、楽しく自分たちの思いが形になるようなことを行えたらいいなと思っています。

「自覚者の自発的な集まり」といった趣旨のお話があり、地域の通いの場を連想しました。業務で認知症施策を担当していますが、「認知症の方の通いの場」に人が来ないことが課題と感じています。認知症や障害といった言葉でくるのではなく、その人の個性ととらえてそれを受け入れられるような居場所ができればと漠然と感じています。

今年度は地域のサロンなども開催回数が少なくなりましたが、だからこそ、会って話すこと、共有の時間を持つことの大切さがわかりました。「満ち足りた最期」というのは、どれだけ人と関わって迎えられるかなあと思いました。

地域という小さなエリアで取り組むことと、圏域を越えて県レベルで多職種の方とグループワークをするという両方を経験できたことは、自分にとって大きな学びとなりました。

参加者の皆さんは、「滋賀で安心して療養し、暮らし続けられるように」という同じ思いを持ち続け、それぞれの立場で取り組んでいらっしゃることを肌で感じました。今後もこの繋がりをさらに広げながら取り組んでいきたいです。

地域創造会議の10年間の歩みを、資料や写真を交えながら、角野事務局長に振り返っていただきました。10年を経て、地域創造会議の役割は少しずつ変化しているように感じます。しかし、根底にある「誰もが地域で自分らしく暮らし続け、老いを迎え、平穏に死を迎える社会を創りたい」という思いは、設立当初から変わらないことを再確認できました。

お知らせ

ホームページに「医療福祉・在宅看取り ことば辞典」を公開しました！在宅医療や看取りの現場でよく出てくるけど、どういう意味かわからない・・・という言葉を集め、わかりやすく説明しています。様々な場面でお役にたください！

☆次回ワーキングのお知らせ☆

日時：令和3年5月27日(木) 18:30~20:00
テーマ：「ACPシートを使った地域でのACPリレー」
講師：滋賀県立総合病院 (守山・野洲医師会)
犬塚 康孝さん
場所：滋賀県庁 東館7階 大会議室
(Webでも参加できます！)

医療福祉・在宅看取りの地域創造会議運営事務局
(滋賀県庁 医療福祉推進課内)

TEL: 077-528-3529

FAX: 077-528-4851

E-mail: info@chiikisouzoukaigi-shiga.jp